

水星交響楽団

チェンバーシリーズ

第3回演奏会

Mercury Symphony Orchestra
"Chamber-Series"
the 3rd Concert

指揮 齊藤 栄一

ヴァイオラ独奏 山本 一輝*

プーランク フランス組曲
ヒンデミット ヴィオラ協奏曲「白鳥を焼く男」*
プロコフィエフ 交響曲第1番「古典交響曲」

ヒンデミット

ピアノ・金管・2台のハープのための協奏音楽
ヴァイラ=ロボス ブラジル風バツハ第2番
芥川也寸志 弦楽のための三楽章



2021年1月31日(日)

開演 14:00 (開場 13:00)

小金井 宮地楽器ホール 大ホール 入場無料(要申込) / 全席自由

- 入場にはチケットが必要です。水星交響楽団ホームページ(<https://www.suikyo.jp>)のチケットセンターからお申込みください。(QRコードからアクセスできます)
- 未就学児の入場はご遠慮いただいております。
- 問い合わせ info@suikyo.jp / 090-1608-5749 (植松)

<https://www.facebook.com/suikyo1984>

@MercurySymphony



水星
ホームページ

水星交響楽団

チェンバーシリーズ

第3回演奏会

Mercury Symphony Orchestra

"Chamber-Series"

the 3rd Concert

大変ご無沙汰しておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。
2020年2月に新型コロナ・ウィルス感染症拡大防止のために発せられた

「自粛要請」により、私たちも5月、11月に予定されていた2つのコンサートを延期せざるを得ませんでした。

そんな中、「ソーシャル・ディスタンスの維持」が叫ばれる状況で活動を再開する
方途を模索した結果、水星交響楽団史上3回目となる「チェンバー・シリーズ」を開催する
こととなりました。が、そこは私たちのこと、編成に制限があるなら、それを逆手にとって
そこでしかできないことをやろう、という極めてポジティブな発想のもと、実質的に2回分の
コンサートに匹敵する超重量級プログラムが出来上がりました。

前半のキーワードは「擬古的」。16世紀の舞曲を元に書かれた7曲から成るプーランク「フランス組
曲」、中世のドイツ民謡に基づいて書かれた一種のヴィオラ協奏曲であるヒンデミットの「白鳥を焼く男」、
ロシア革命の最中にプロコフィエフがハイドンを模して書いたとされる交響曲第1番「古典交響曲」の3曲をお
聴きいただきます。

ヒンデミットのソリストにはクアルテット・インテグラなどでも活躍する気鋭のヴィオリスト山本一輝を迎えます。

一方、後半は和風な素材をロシア=ソ連風の書法でまとめ上げた芥川也寸志の「弦楽のための三楽章」と、「ブラジル
風」以上にジャズのテイストが横溢するヴィラ=ローボスのブラジル風バツハ第2番という「民俗色」豊かな2曲で、実
質的なピアノ協奏曲であるヒンデミットの「ピアノ、金管楽器、ハープのための演奏会用音楽」を挟む構成となります。

これら6曲、書かれた時期はプロコフィエフの1917年と芥川の1953年を除いてほぼ1930年代と時代背景は共通してい
ますが、作風は実に様々。それぞれの曲が描き出す音像が、少しずつ重なりながらズレていく、そんな音楽史的なグラデ
ーションを感じ取っていただければ、と思います。

指揮

齊藤栄一 Eiichi Saito



©Takashi Fujimoto

京都大学にて音楽学を、国際基督教大学大学院にて美術史学を研究。この間、指揮法を尾高忠明、田中一嘉、円光寺雅彦の各氏に師事。1981年には京都大学交響楽団と2週間に渡り、ドイツ、オーストリアにて演奏旅行を行い、ザルツブルグ音楽祭などにて指揮。82年には関西二期会室内オペラ・シリーズ第9回公演、ブリテン作曲「ねじの回転」(関西初演)の副指揮者を務める。

84年に水星交響楽団の常任指揮者に就任。水星交響楽団、オルフ祝祭合唱団との共催で、佐多達枝振り付けのバレエ「カルミナ・ブラーナ」(95年、東京文化会館)、「ダフニスとクロエ」(99年、新宿文化センター)を指揮した。その後、「カルミナ・ブラーナ」のバレエ公演では、神奈川フィル、東京シティ・フィルも指揮している。2005年には、同曲を含むオルフの「トリオンフィ」3部作(4台のピアノと打楽器)を指揮している。

明治学院大学文学部芸術学科教授。著書に「往還する視線 14-17世紀ヨーロッパ絵画における視線の現象学」(近代文芸社)、「振っても書いてもしょせん酔狂」(水響興満新報社)がある。

ヴィオラ

山本一輝 Itsuki Yamamoto



5歳よりヴァイオリンを始め、18歳よりヴィオラに転向。クアルテット・インテグラのメンバーとして第8回秋吉台音楽コンクール 弦楽四重奏部門 第1位。併せて、ベートーヴェン賞、山口県知事賞を受賞。堤剛、山崎伸子、練木繁夫各氏との共演でも好評を博す。ソロでは、横浜交響楽団とのパルトークのヴィオラ協奏曲を共演や、新曲の初演にも意欲的に取り組んでいる。ヴィオラを佐々木亮氏に、弦楽四重奏を磯村和英、山崎伸子両氏に師事。サントリーホール室内楽アカデミー第5,6期フェロー。桐朋学園大学音楽学部卒業。

Access 宮地楽器ホール

- JR中央線「武蔵小金井駅」南口駅前
- 小田急バス、関東バス、西武バス、京王バス「武蔵小金井駅」下車 徒歩1分



「新型コロナウイルス感染拡大の予防に関するお願い」を当団ホームページに掲載しております。ご一読の上ご来場いただきますようお願いいたします。